

## 第2章 伊達市の産業

### 1. 就業構造

本市の産業別就業者数は、令和2(2020)年の国勢調査で見ると、第1次産業が1,401人(9.7%)、第2次産業が2,483人(17.3%)、第3次産業が10,496人(73.0%)となっており、全道と比較すると第1次産業の比率が高くなっています。

平成27(2015)年と比較し、産業別就業者の割合に大きな変動はありません。

産業別就業者数 (単位:人(%))

区分		平成22(2010)年	平成27(2015)年	令和2(2020)年
就業者数	伊達市計	15,628 (100.0)	15,971 (100.0)	14,380 (100.0)
	伊達地域	15,047 (100.0)	15,452 (100.0)	13,989 (100.0)
	大滝区	581 (100.0)	519 (100.0)	391 (100.0)
	全道	2,372,293 (100.0)	2,300,158 (100.0)	2,282,831 (100.0)
第1次産業	伊達市計	1,651 (10.6)	1,655 (10.4)	1,401 (9.7)
	伊達地域	1,540 (10.2)	1,560 (10.1)	1,329 (9.5)
	大滝区	111 (19.1)	95 (18.3)	72 (18.4)
	全道	181,531 (7.7)	170,336 (7.4)	156,298 (6.8)
第2次産業	伊達市計	2,963 (18.9)	2,895 (18.1)	2,483 (17.3)
	伊達地域	2,934 (19.5)	2,866 (18.5)	2,463 (17.6)
	大滝区	29 (5.0)	29 (5.6)	20 (5.1)
	全道	429,376 (18.1)	411,569 (17.9)	387,947 (17.0)
第3次産業	伊達市計	11,014 (70.5)	11,421 (71.5)	10,496 (73.0)
	伊達地域	10,573 (70.3)	11,026 (71.4)	10,197 (72.9)
	大滝区	441 (75.9)	395 (76.1)	299 (76.5)
	全道	1,761,386 (74.2)	1,718,253 (74.7)	1,738,586 (76.2)

(国勢調査)

### 2. 産 業



#### (1) 農林業

##### 【農業】

- 本市の農業は、明治初期の開拓以来、先進諸国の知識、技術の先駆的導入によって寒地農業の確立を図り、模範農業として本道初期開拓の進展に大きく貢献しました。こう

した開拓 150 年余の歴史を背景に、恵まれた気象条件、土壌条件、地理的条件を生かして都市近郊型農業を確立し、野菜を中心に畑作、水稻、酪農、花きなど多角的な複合経営を展開しています。

- 伊達地域においては温暖な気候のもと多種多品目の野菜が生産されており、「伊達野菜」の名でブランド化が図られています。中でもキャベツやブロッコリーなど、道内有数の生産量を誇る野菜を札幌などの主要市場へ出荷しています。

また、本市の温暖な気候を生かした冬期ハウス栽培による「冬野菜」の推進、新たな高収益作物としてさつまいもの産地化を目指す取組、高糖度トマトや越冬たまねぎなど農業者が主体となった生産技術向上や産地化に向けた取組を行うことで、他産地との差別化や優位性を確立し販売戦略の構築を図るほか、農産物生産の基礎となる土づくりにおいても、伊達市堆肥センターが製造する堆肥を販売し土壌改良を促進するとともに、関係機関と連帯した土壌分析及び施肥設計を行う取組を実施しています。

さらに、ワイン産地としての地域ブランドの創出を目指し、醸造用ぶどうの試験栽培及びワインの試験醸造を行い、令和 4 (2022) 年度からスパークリングワインの試験販売も開始しています。

令和 5 (2023) 年度からは稀府・関内農業研修センターにおいて、環境制御型農業の営農実証を開始し、将来的には農業の担い手を育成するための研修施設として運営していきます。

現在、長和及び関内地区においては、生産性や収益性の向上、耕作放棄地の解消などを目指し、国営緊急農地再編整備事業による基盤整備を実施しています。

- 大滝区においては山岳丘陵地の畜産と狭小な平坦地における根菜類等の寒冷地作物の栽培が中心となっています。一般的に山岳の丘陵地帯であるため大規模機械化農業を推進するには制約が大きいことから、販売農家一戸あたりの耕地面積は全道平均 21.5ha の 50% 程度と狭く、安定した農業経営を図るためには付加価値の高い作物の選定や地力向上のための生産基盤整備を進める必要があり、平成 24(2012) 年度においては長芋選果機の更新を行い円滑な出荷体制の整備を行っているところです。

一方、農業を支える担い手の減少と高齢化が進んでいることから、重量作物から軽量作物への転換のひとつとして、アロニア（小果実）の栽培に取り組んでおり、J A とうや湖において選果出荷がされています。

### 農業の推移

区分	農家数				耕地面積	田	畑	
	専業	兼業	販売農家	自給的農家				
平成 22(2010)年	537 戸	235 戸	211 戸	—	91 戸	4,125ha	348ha	3,758ha
平成 27(2015)年	475 戸	250 戸	152 戸	—	73 戸	3,804ha	342ha	3,462ha
令和 2 (2020)年	382 戸	—	—	318 戸	64 戸	2,858ha	212ha	2,646ha

(世界農林業センサス、農林水産統計年報)

### 主な種類別作付面積

作付面積 (ha)	水稻	小麦	馬鈴薯	小豆	てんさい	キャベツ	ブロッコリー
平成 22(2010)年	231ha	364ha	94ha	127ha	—	—	—
平成 27(2015)年	210ha	210ha	83ha	145ha	321ha	142ha	162ha
令和 2 (2020)年	175ha	146ha	64ha	138ha	302ha	133ha	160ha

(世界農林業センサス)

### 家畜飼養規模数と頭数

\*()の数字は実戸・頭数に含む大滝区の数を示す。

(単位：頭)

\*上段が実戸数、下段が頭数を示す。

区分	10頭以下	11～20頭	21～30頭	31～40頭	41～50頭	51～100頭	101～300頭	300頭以上	合計
乳牛	1戸 (1戸)	1戸	2戸	2戸	1戸 (1戸)	6戸	7戸	1法人	20戸1法人 (2戸)
	9 (9)	15	52	73	42 (42)	559	874	358	1,982 (51)
肉牛	9戸 (1戸)	5戸 (1戸)	2戸	3戸 (1戸)	2戸	6戸	3戸	—	30戸 (3戸)
	48 (6)	70 (14)	44	109 (35)	97	380	388	—	1,136 (55)
豚	—	—	—	—	—	—	—	2法人 (1法人)	2法人 (1法人)
	—	—	—	—	—	—	—	4,790 (1,509)	4,790 (1,509)
馬	6戸	—	—	—	—	1法人	—	—	6戸1法人
	19	—	—	—	—	60	—	—	79

区分		1万羽以下	1万羽～10万羽	10万羽以上	合計
鶏	採卵鶏	7戸3法人(3戸)	2法人	—	7戸5法人(3戸)
		2,542(31)	188,721	—	191,263(31)
ブロイラー	ブロイラー	—	—	1法人	1法人
		—	—	1,349,131	1,349,131

(令和5(2023)年2月1日現在 農務課家畜飼養状況調査)

## 【林業】

- 伊達市森林整備計画内の森林は約 13,652ha あり、そのうち 4,042ha が人工林、8,639ha が天然林、971ha が天然性萌芽林となっています。樹種として人工林ではカラマツ、トドマツ、アカエゾマツ、シラカンバ等が多く育っており、天然林はハンノキ、ミズナラ、シラカンバ、ケヤキなどの広葉樹が多い森林となっています。
- 近年、就業者の減少・高齢化などにより林業・木材経営は厳しい環境におかれていることから、間伐で不要となった木材（カラマツ）を原料とし、地球にやさしい環境づくりを目的とした木質ペレットの生産を行い、雇用創出、販路拡大のための取組を推進しています。ペレットボイラー、ペレットストーブが個人住宅や公共施設等に設置されており、伊達市以外でもその利用がなされています。

### ペレット生産・出荷量

(単位：t)

区分	生産量	出荷量	出荷先		
			公共施設	一般(事業所含)	農業用
平成 26(2014)年度	1,503	1,522	271	1,135	116
平成 27(2015)年度	1,429	1,323	278	951	94
平成 28(2016)年度	1,110	1,172	261	852	59
平成 29(2017)年度	1,084	1,092	227	810	55
平成 30(2018)年度	1,105	1,006	217	742	47
令和元(2019)年度	1,019	955	219	695	41
令和2(2020)年度	913	993	218	735	40
令和3(2021)年度	778	979	205	746	28
令和4(2022)年度	1,073	920	169	704	47

(水産林務課)



## (2) 水産業

- 本市の水産業は、噴火湾養殖漁業の要所にあり、ホタテ貝などの貝類を主体とした養殖漁業で発展してきました。また、サケの増殖事業ではふ化放流技術向上のため、黄金・関内地区に伊達さけ・ますふ化場を設置し、サケの安定的な回帰を図っています。
- 育てる漁業を推進するため、北海道栽培漁業伊達センターが完成し、平成 18(2006)年度より、えりも町から函館市にかけての海域で 100 万尾のマツカワ※の種苗が放流されています。(※マツカワはホシカレイ、ヒラメと並ぶ高級魚でカレイ類の中で最高に美味と絶賛する人もいるほどです。その白身は主に刺身や寿司ネタに使われます。)
- 本市には、いぶり噴火湾漁業協同組合の伊達支所、有珠支所があり、伊達市街沿岸の伊達漁港・黄金漁港及び恵まれた入江となっている有珠湾をそれぞれ核として前浜漁業が営まれています。

## 水産業の推移

区分	漁家数(戸)	従業員数(人)	動力漁船数(隻)	漁獲高数(t)	水揚げ高(百万円)
平成23(2011)年	94	194	235	4,660	1,048
平成24(2012)年	92	188	217	5,266	1,047
平成25(2013)年	96	184	208	4,971	1,131
平成26(2014)年	89	168	202	6,030	1,613
平成27(2015)年	89	178	187	5,745	1,910
平成28(2016)年	89	160	170	4,641	1,684
平成29(2017)年	91	154	164	4,314	1,639
平成30(2018)年	77	154	151	3,483	1,046
令和元(2019)年	65	130	152	2,361	725
令和2(2020)年	63	117	128	2,248	585
令和3(2021)年	63	117	126	3,028	730

(水産林務課)

### 令和3(2021)年内訳(漁獲高・水揚げ高)

区分	ホタテ	サケ	その他	合計
漁獲高数 t	2,501	67	460	3,028
水揚げ高 百万円	384	56	290	730

(水産林務課)



## (3) 商 業

- 本市の商業は、胆振西部を商圈とし、購買力吸引型広域商業ゾーンとして発展してきており、網代町、市役所通りを中心として鹿島町・大町・錦町、駅前に商店街が形成されています。しかし、近年は郊外への大型店進出等により、古くからの商店街には空き店舗が目立っています。
- 国道沿いにはロードサイドショップとして自動車販売店、ガソリンスタンドや大型のスーパーマーケットなどが立地していますが、近年はコンビニエンスストアや各種専門店の立地により、新たな商店街を形成しています。

- 中心市街地は、古くから商店や住宅が集積しており、いろいろな機能を培ってきた「まちの顔」です。この「まちの顔」の活性化のため、商工会議所・商店街・地域住民が協働で元気あふれるまちづくりを進めています。

### 商業の推移

区分	商店数(店)	従業員数(人)	商品販売額(千円)	1店当たり販売額(千円)
平成 2(1990)年	492	2,635	61,636,000	125,276
平成 5(1993)年	447	2,926	67,442,000	150,877
平成 8(1996)年	427	2,709	71,503,000	167,454
平成 10(1998)年	439	3,071	69,375,000	158,030
平成 13(2001)年	429	3,018	61,220,000	142,704
平成 15(2003)年	405	2,781	60,527,000	149,449
平成 18(2006)年	398	2,738	50,711,470	127,416
平成 23(2011)年	297	2,068	41,737,000	140,529
平成 24(2012)年	296	2,102	41,982,580	141,833
平成 28(2016)年	301	2,232	45,023,000	149,578
令和 3(2021)年	273	2,054	44,670,000	163,626

(商業統計調査、経済センサス-活動調査)

※「平成 21(2009)年商業統計調査」は、経済センサスの創設に伴い中止。

※平成 24(2012)年、平成 28(2016)年、令和 3年(2021)年は「経済センサス-活動調査」の数値。



## (4) 工業

- 本市では古くは明治初期から農村工業が盛んで、道央地区新産業都市の指定に伴って工業が活発化し、現在では地域で生産される農産物を加工する食料品工業を中心に発達してきているほか、コンクリート製品製造などが産業の重要な一翼を担っています。
- 2つの工業団地を有し、北海道縦貫自動車道伊達インターチェンジに隣接する松ヶ枝地区中小企業団地(分譲済み)及び現在分譲中の伊達長和工業団地(工業専用地域)があります。伊達長和工業団地付近には、北海道電力(株)伊達発電所があり、すでに数社の企業が立地操業しており、今後も引き続き企業誘致を進めていきます。また、有珠山噴火の際の避難道路として道道南黄金長和線(長和～館山下間)が平成 18(2006)年に整備されたことにより、国道からのアクセス性が増し、さらなる企業立地が期待されています。

## 工業の推移

区分	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	工業出荷額等 (百万円)
平成 17(2005)年	32	825	17,101
平成 18(2006)年	30	580	14,541
平成 19(2007)年	34	653	15,807
平成 20(2008)年	33	658	16,786
平成 21(2009)年	33	665	16,732
平成 22(2010)年	32	643	16,419
平成 23(2011)年	31	558	16,570
平成 24(2012)年	31	627	14,443
平成 25(2013)年	32	630	15,298
平成 26(2014)年	30	613	15,333
平成 27(2015)年	30	683	24,374
平成 28(2016)年	26	536	14,882
平成 29(2017)年	27	752	21,057
平成 30(2018)年	26	754	21,173
令和元(2019)年	24	713	19,525
令和 3(2021)年	26	684	21,424

(工業統計調査、経済センサス-活動調査)

※数値は従業者 4 名以上の事業所

※平成 24(2012)年、平成 28(2016)年、令和 3(2021)年は「経済センサス-活動調査」の数値

## (5) 観 光



■ 本市は、武士の集団移住により開拓され、北海道内でも固有の歴史を持つまちです。縄文遺跡も数多く出土され史跡に指定されている北黄金貝塚や、蝦夷三官寺として北海道遺産に選定された有珠善光寺など歴史探勝地として注目されています。令和 3(2021)年 7 月には北黄金貝塚が「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産の 1 つとして世界文化遺産に登録されました。

また、平成 31(2019)年 4 月にオープンした「だて歴史文化ミュージアム」は、武具甲冑類や美術工芸品、重要文化財の有珠モンリ遺跡出土品など縄文時代から現代までの地域の歴史などをわかりやすい解説とともに展示する施設として整備されました。

北海道内唯一の藍生産地ならではの藍染め体験ができる「藍工房」や、刀匠渡辺惟平さんの刀剣製作が見学できる「刀鍛冶工房」が入る「体験学習館（旧黎明観）」と一体的な施設として生まれ変わりました。

- 武士による開拓の歴史と伝統を象徴する勇壮な騎馬武者による「伊達武者まつり（8月上旬）」をはじめとして、「だて農業・漁業・大物産まつり（9月中旬）」や道内各地の物産品を楽しめる「だて食のフェスティバル（10月上旬）」などのイベントが開催されています。

また、北海道の早春を飾るスポーツイベントとして、約4,000人のランナーが市内を駆け抜ける「春一番伊達ハーフマラソン大会（4月中旬）」は、道内屈指のマラソン大会として位置づけられています。

- 登別、洞爺湖の二大温泉地の間に位置していることから、いわゆる通過型観光地として発展してきましたが、近年は道の駅「だて歴史の社」の中核施設である「伊達市観光物産館」での地元の新鮮な「伊達野菜」の販売が好調で、年間来場者数約140万人を誇る道内屈指の人気スポットとなっています。

- 洞爺カルデラや有珠山などに代表される地質遺産や雄大な自然遺産、さらに縄文遺跡などの歴史遺産からなる「洞爺湖有珠山ジオパーク」が、平成21（2009）年8月に世界ジオパークに登録されました。博物館、自然観察路、ガイド付きツアーなどにより、地球科学や環境問題に関する教育・普及活動を行っています。

## 【大滝区】

- 支笏洞爺国立公園の中心部に位置する大滝区は、道央圏と道南圏の観光エリアを結びつける好地域性を有しており、湯量豊富な「北湯沢温泉郷」を中核に、「ホロホロ山自然休養林」、「景勝三階滝公園」などを擁し、札幌市、千歳市、室蘭市などの道内主要都市と胆振、石狩、後志各振興局にまたがる観光圏域となっています。

また、北湯沢温泉郷には大小の温泉宿が軒を連ね、観光客の受入体制も整っています。

- 大滝区の変化に富んだ丘陵や森は絶好のクロスカンントリーコースになることから、国内外から愛好者が参加する「おおたき国際スキーマラソン（2月上旬）」や、フィンランド生まれでポール（ストック）を使って丘陵地や山、平坦なコースを歩く「おおたき国際ノルディックウォーキング（7月上旬）」などが開催されています。

- 令和5（2023）年5月に旧大滝中の校舎を利用してオープンした「CHILDHOOD」は、次世代型アトラクションパークとなっており、トランポリンや赤外線を使用したサバイバルゲーム、VRゲームのほか、屋外ではバギーを楽しむことができます。

また、優徳農村公園コミュニティ施設を改修し、同月オープンした「赤いはちみつの丘」では、地場産品であるアロニアを使った「赤いはちみつ」の製造工程の見学や調理・採蜜体験、せっけんやアロマ香水づくりなど複数の体験ができます。また、カフェスペースでは、スムージーやスイーツなどを味わうことができます。



### 令和4(2022)年度期別観光客入込数

(単位：千人)

区分		R1計	R2計	R3計	R4計	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
伊達市計	入込総数	1,629.9	1,123.5	1,182.8	1555.4	413.7	417.3	403.4	321
	道外客	62.5	42.6	50.4	58.9	13.3	20.4	15.5	9.7
	道内客	1,567.4	1,081.0	1,132.4	1496.5	400.4	396.9	387.9	311.3
	日帰客	1,402.1	990.7	1,059.8	1356.8	373.6	362.7	351.1	269.4
	宿泊客	227.8	132.8	123.0	198.6	40.1	54.6	52.3	51.6
うち 大滝区	入込総数	663.1	395.4	471.0	788.9	150	130.5	241.1	267.3
	道外客	31.8	18.45	27.8	34.7	8	5.3	12.6	8.8
	道内客	631.4	376.88	443.2	754.2	142	125.2	228.5	258.5
	日帰客	472.0	281.59	365.2	607.4	113	80	194	220.4
	宿泊客	191.2	113.81	105.8	181.5	37	50.5	47.1	46.9

(商工観光課)

### 有珠海水浴場利用状況

区 分	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
開設期間	7/13～8/18	7/23～8/20	7/22～8/26	7/16～8/28
開設日数 (日)	37	29	36	44
入込数 (人)	4,703	5,034	6,979	9,874
中央海水浴場 (人)	4,226	4,161	1,379	2,781
USUマリンアスレチック「アトウイ」(人)	—	—	4,494	6,048
キャンプ場 (人)	135	623	800	732
海浜利用者 (人)	342	252	306	313

(商工観光課)

※USU マリンアスレチック「アトウイ」は令和3(2021)年度より実施

### 主要イベント入込数

(単位：人)

主要イベント名称	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
春一番伊達ハーフマラソン大会 (参加者数) (4月)	3,418	中止	中止	3,429
伊達武者まつり (8月)	40,000	中止	中止	中止
だて農業・漁業・大物産まつり (10月)	15,000	中止	中止	中止

(商工観光課)

※「春一番伊達ハーフマラソン大会」について、令和2(2020)年度及び令和3(2021)年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止

※「伊達武者まつり」、「だて農業・漁業・大物産まつり」について、令和2(2020)年度、令和3(2021)年度及び令和4(2022)年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止

### 主要観光施設入込数

(単位：人)

主要観光施設名称	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
北黄金貝塚公園	11,540	8,663	14,303	24,835
有珠海水浴場	4,704	5,034	5,874	9,874
有珠善光寺自然公園	3,810	2,406	9,070	6,967
伊達市観光物産館	1,360,780	1,204,197	1,128,155	1,168,898
だて歴史文化ミュージアム	22,924	7,576	3,230	8,658

(商工観光課)